

OECDの個別学習の自動化レベル

ハイブリッド型授業とは、対面授業とオンライン授業とを組み合わせた授業システムのこと。

1

レベル1

対面授業

e-Learning

対面授業

e-Learning

e-Learning

対面授業

繰り返し

レベル1 教師補助

教師はデジタル機器（技術）の支援を利用し、学習指導をする。
例）デジタル機器は児童・生徒の学習状態の情報提供や教材・学習材等の提供支援をする。

（例）反転授業

反転授業（はんでんじゅぎょう、英語：flip teaching (or flipped classroom)）は、ハイブリッド型学習の形態のひとつで、学生たちは新たな学習内容を、通常は自宅でオンライン授業を視聴して予習し、教室では講義は行わず、逆に従来であれば宿題とされていた課題について、教師が個々の学生に合わせた指導を与えたり、学生が他の学生と協働しながら取り組む形態の授業。

■ 対面授業とe-Learningを交代に組み合わせて、e-Learningの映像により理論的な学びをし、対面授業によりグループ討議やワークショップを行う。e-Learningにより授業内容に課題や疑問点を持ち対面授業に向かうことで、個別最適化した学びの実現と問題解決能力を身に付けることができる。

2

レベル2

対面授業

e-Learning

対面授業

レベル2 部分的自動化

教師は特定の学習指導についてデジタル機器（技術）にまかせる。
例）一人一人の児童・生徒の個に適した問題を提供したり、解答の支援をする。学習技術の代表的な機能は、説明・診断・助言を特定の事例で実行する。

■ 対面授業とe-Learningを組み合わせて、最初の対面授業にて授業の目標を明確化し、学習の方法を示したのちにe-Learningによるオンライン授業（オンデマンド学習）に取り組む。E-Learningでは、わからなかった内容を繰り返し閲覧し確認することが、自分の理解度やペースに合わせて繰り返し視聴できるため、予習時の理解も高めることができる。また、復習にも活用することができるため、知識を定着させる効率を高めることができる。

3

レベル3

e-Learning

レベル3 条件付き自動化

学習指導の中心は教師であり、デジタル機器（技術）は、学習指導の支援とし、教師の指導が必要になるとき、教師に連絡（通知と助言）をする。

■ e-Learningのみでの学修は、いつでも、どこからでも学修ができ、教えないで学べる完成型として位置付ける。社会には多くのオンラインでの学修機会がある。今後、広く深く学びを継続し、学び続ける教師としてハイブリッド型授業Ⅲ型は、発展性がある学習方法になる。

4

教育リソース

テキスト

各種資料のデジタルアーカイブ

質疑・応答への対応

インストラクショナルデザインによるテキスト作成

講演・実践の映像、資料のデジタルアーカイブ

Zoomやグループウェアを活用した質問対応